



# 敬老会

# ふくろう新聞

<発行>  
 特別養護老人ホーム 郷会  
 淡路ふくろうの郷会  
 広報委員  
 洲本市中川町中川原 28 番地 1  
 TEL: 0799-25-8550  
 FAX: 0799-25-8551  
 ホームページ  
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

映画『ひげの校長』が神戸で上映されます。主人公は大阪市立ろう学校、高橋潔校長です。高橋潔校長は手話も必要だと主張し頑なに手話を守り続けました。それはなぜでしょうか？何のために、何を教え導くために手話を必要としたのでしょうか？上映は1月28日長田ピフシホール。今から上映が楽しみです。

全国各地の祭り・音頭や踊りをふれあい座のメンバーが披露してくださり、一緒に盛り上がりました！

中村茂男)

令和4年9月18日(日)、淡路ふくろうの郷敬老会を行いました。時節柄一堂に会することはできず、2部制で小規模に執り行うことになったのが残念でした。しかし、理事長、施設長、何より全力で取り組んで大いに盛り上げてくれたふれあい座担当、敬老会担当、職員一同、精一杯盛大にお祝いすることが出来ました。

お祝いの品を贈呈し喜んでいただいている姿をみてこちらも嬉しく幸せな気持ちにさせていただきました。次の節目のお祝いを迎えていただきますよう、今後益々お元気で過ごしていただくお手伝いに励んでいきたいと思えます。(生活援助係)



おめでとうございます  
 節目のお祝いの品を各ユニットで相談し、入居者が喜んでくれる顔を思い描きながら10名分のプレゼントを準備しました。



▲不動様(米寿)・松崎様(米寿)・中野様(喜寿)・後様(最高齢:103歳)



▲松本様(米寿)・武部様(米寿)・山田様(米寿)・久野様(米寿)・芝田様(喜寿)

これからもお元気で

# ふくろう物語 石川 孝司様



昭和10年9月9日愛媛県川之江市(現・四国中央市)生まれの87歳。本人から話を聞くことが難しいので娘様から話を伺いました。

## 父の背中を見て育つ

愛媛県の松山聾学校に小学部から高等部まで寄宿舎で生活しました。野球が好きで根っからの巨人ファンです。

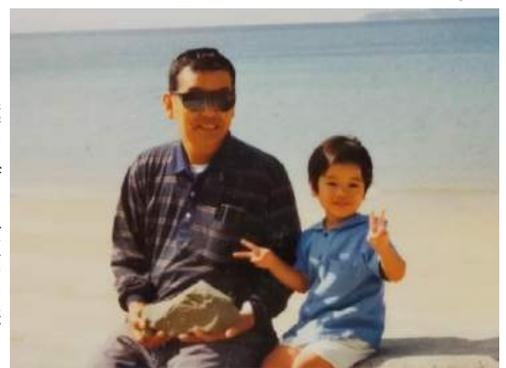
卒業後は実家で見習い大工として父親と一緒に働いていました。父親のバイクの後ろに乗り、遠くの現場まで行くのが楽しかったそうです。

## 第二の人生を歩む

若くしてその父親を亡くし家業をたたみ、大工として働きに出ました。当時は台風が強い鉄筋コンクリートの家のはや

つていました。自分の家もそのときに建てました。内装は夜な

夜なこだわって丁寧につくり、欄間や仏壇、下駄箱、掘りごたつ等すべて手作りです。趣味は松の盆栽の手入れに夢中でした。台風がくると盆栽が飛ばないように縛ったりとても大切にしていました。多趣味で切手収集、骨董、旅行、セキセイインコ飼育、カメラ、ビデオ、当時は8ミリビデオで家族や友達との旅行、祭り、ろう者の集まりや会合などの様子を撮影して写真を自宅で行っていました。



▲25年程前、孫さんと新居浜へドライブ

た。初孫もとてもかわいがってくれました。相思相愛です。更にひ孫にも会えました。

つながらでふくろうの郷へ これまでに幾度となく入居を検討してきましたが、今後の生活を見据えて令和4年3月28日に淡路ふくろうの郷へ入居されました。

71歳の時に最愛の妻を亡くしました。耳も目も不自由なので生活がとても心配でした。しかし、本人は寂しいながらも頑張って助けを借りながら生活できたことは本当にすごいと思います。

## 親子の時間

月に一度帰省し、生まれて初めて父といろいろと話すようになりました。

周囲の方々に恵まれ父と

過ごすうちに、父を介して娘の私にも人とのつながりができました。強さはないけど穏やかな人、父に怒られたこともなく、マイペースでちょっと臆病なことを知りまし

(生活援助係 石黒裕規)

家を建てる大工の棟梁をしてきた家に生まれました。父の祖父は宮大工で父の尊敬する人でした。お弟子さんもたくさんいました。ある時、音に反応しないことに気づいたようです。さらに聞こえないことで田んぼの刈り入れの時に脱穀機にあやまって触り指を切断しました。

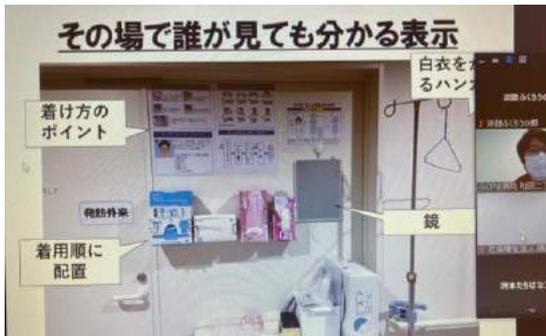


▲20年程前にご夫婦で上京した時の写真です。

両親はなんとか聞こえるようにならないかと四国中の病院や大阪まで押みに出かけるなど息子のためにと奔走したそうです。



令和 4 年度看護・介護研修会  
 感染対策と有事に備える BCP(事業継続計画)  
 準備は裏切らない!



淡路ブロック老人福祉事業 研修資料 109 頁に及ぶ感染  
 業協会主催の看護・介護職員 症、主に新型コロナ感染症対  
 研修会(オンライン)が 9 月 策について改めて学び施設  
 16 日(金) 各施設から 80 名 で「感染症ゼロにするのは困  
 難。しかし、感染症の被害を  
 参加し開催されました。  
 「老人福祉施設の感染対策  
 と有事に備える BCP (事業継  
 続計画) 準備は裏切らな  
 い!」と題し、医療法人社団  
 要」という事を学びました。  
 医仁会ふくやま病院、感染管  
 事業継続計画とは、自然災  
 害、感染症、その他不測の事  
 態が発生しても中断させな  
 い、中断しても可能な限り短  
 い期間で復旧させるための  
 方針、体制、手順を示した計  
 画の事で、事業を進めるため  
 の土台になります。「BCP は転  
 ばぬ先の杖であり、転んだ後  
 の杖である」という講義に共  
 感し、淡路ふくろうの郷での  
 感染対策の実践を BCP にまと  
 めていきます。

施設長 狭間 孝)

### 職員研修「腰痛予防について」 「リフト研修」

9/27 (火) 職員全体会議 (地域交流スペース)  
 で安全衛生委員会のメンバーによる「腰痛予防  
 について」のお話と実演がありました。

普段、腰痛予防で実践していることを職員に尋  
 ねると「ストレッチ」「支持基底面を意識して介  
 助している」などの声がありました。ベッドから  
 車椅子へ移乗介助の実技発表では、介助者が  
 椅子に座って体を安定させて行う方法や、介助  
 者自身の足の上に乗せての移乗を行いました。

リフト研修も合わせて行いました。介助を受け  
 入居者・介助者(職員)自身お互いが安心  
 して安定した姿勢で負担のかからない介護をこ  
 れからも実践していきたいと思えます。

### 安乎小学校 4 年生と交流 9/27

毎年、交流を続けている安乎小学校の 4 年生 11 名  
 が濱田先生引率のもと、ふくろうの郷に来訪してく  
 れました。

7 月 1 日(金)に手話教室で学校に伺い、生徒達と  
 一緒に聞こえについてやどんな時に困るか、どうす  
 れば解決できるか、筆談やメール、手話でのコミュニ  
 ケーション方法等について学ぶ機会を設けていただ  
 き交流しました。今回は更に生徒たちが手話学習を  
 深め、自己紹介・手話歌「もみじ」を披露してくれま  
 した。生徒達から職員への質問があり、「なぜ、この  
 仕事を選んだのか」「働いてうれしかったこと」「どう  
 すれば手話が上手くなるの」等について答えました。  
 途切れることなく交流を継続できていることに感謝  
 しつつ、子供たちが良き理解者になってくれること  
 を願っています。(生活援助係 伊達美紀)



### 10 月・11 月 ふくろうの暮らし

- 10/18(火) ふくろう大学絵手紙講座
- 10/19(水) ふくろう喫茶
- 10/23(日) ふくろうふれ愛まつり
- 10/26(水) ふくろう大学書道講座
- 11/ 1(火) ふくろう大学演劇講座
- 11/ 2(水) 誕生会
- 11/ 7(月) ふくろう理髪店
- 11/ 9(水) 手話講座
- 11/15(火) ふくろう大学絵手紙講座

淡路聴覚障害者

センター便り

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

第3回社会生活教室

「食生活と健康」

9/2 洲本市健康福祉館



▲食品サンプルを見ながら食事の栄養素を計算する参加者

洲本市健康増進課の保健師さんと栄養士さんに「食生活と健康」についてお話をしていただきました。

多く食べるのではなく8つの体に良いからと野菜だけを

丸の数(○1個は80kcal)を書き出し栄養士さんの作ってくれた数値(○の数で表示)と見比べ、自分の食べ方の特徴を見ました。

栄養士さんが事前に参加者の年齢、身長から個々の栄養の目安を書き込み準備してくれていました。参加者は食品サンプルを見ながら昨日食べた食事を全て栄養素ごとに丸の数(○1個は80kcal)を書き出し栄養士さんの作ってくれた数値(○の数で表示)と見比べ、自分の食べ方の特徴を見ました。

栄養素をバランスよく組み合わせるのも大事ですが、自分の健康の状況を把握するために年に一度は住民健診を必ず受けてほしいとの話がありました。

最後に日々の食事に注意する(岡本久子)

「要約筆記啓発講座」

コミュニケーション支援について学びましょう

9月24日から10月29日まで5回に渡り「コミュニケーション支援について学びましょう」というテーマの講座が始まりました。難聴者に対して、「聞こえにくい」ことへの理解や話している内容をその場で文字で伝える「要約筆記」という方法があることを知ってもらうことが目的です。淡路島内各地から9名の申込がありました。

人工的に高音部分をカットした音声を聞いて、何と聞こえるかなどのクイズもありました。

受講生からは、「補聴器を掛けている人に大きな声で話しかけてはいけないのは意外でした。」「聞こえないことで生活する不便さや、途中で難聴になった人は余計に辛いと思うと胸がいっぱいになりました。」「私たちが当たり前前に生活できていることが当たり前ではないことに気づかされました。」などの感想がありました。

初回は、ひょうご要約筆記講師の会から柳瀬尚子氏に「聴覚障害の基礎知識」のテーマで聞こえの仕組みの話聞いた後、グループの1人が難聴者役になって、周りと同じように行動できるか、実際に補聴器をつけて、相手が大きな声で話されたらどのように聞こえるかなどの体験や、2回目からは地元の要約筆記サークルの方が講師になり、普段の活動の様子を伝えながら一緒に学んでいただきます。子育て真っ只中で難聴となり、母親としての役目を果たせない苦しみなどの体験談と協力してくれた家族への感謝のお話をお聞きしたり、要約筆記の体験も行いました。

(酒井真由美)





**ふれあいセンター職員研修②  
障害福祉サービス事業  
受給者証の申請方法は？**

9月22日(木)、ふれあいセンター研修会を開催し、14名の参加がありました。

『就労継続支援A型・B型事業所』をテーマに、利用までの

**中川原高齢者・障がい者地域  
ふれあいセンター**



☎ 656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL 0799-28-0990  
FAX 0799-28-0992

流れ(受給者証取得)やA型B型の違いについて、淡路島内の事業所の様子などについてお話ししました。

契約の有無や賃金に違いはあっても「働きたい」という気持ちに添えてくれる事業所があることを嬉しく思いながら、研修させていただきまし

(相談専門員 高木)

◦就A・就Bの違い

	就労継続支援A型	就労継続支援B型
利用期間	なし	
目的	働く場所を提供する	
対象者	現時点で一般企業への就職が困難、または不安な方	
雇用契約	あり	なし
賃金	平均月収約7万円	平均月収約1.5万円
年齢制限	65歳未満	なし
利用料金	前年度世帯収入による	

**おのこの家卒業  
柴峠菜緒さん**

9月29日(木)柴峠菜緒さんのお別れ会をしました。おのこの家を卒業され、一般就労されます。

「4年前、来た時は、手話もわからず、不安だったけど、皆さんに助けていただきました。新しい職場でも頑張ります。」ともしっかり挨拶されました。いつも終わりの会で一日の仕事の発表をしています。今では手話で表現されています。10分ほどの間でしたが、涙ぐむ人や入れ代わり立ち代わ



りにお祝いの言葉やお別れの挨拶を交わしました。送迎の時間になってもまだ柴峠さんとの別れを惜しみ、みんなから祝福されての卒業となりました。

新しい職場でも自分に自信をもって、頑張ってください。他の利用者さんも柴峠さんに続いて卒業していきます。

(支援員 藤本)

おのこの家 所長 橋詰様  
職員のみな様  
利用者のみな様

2018年11月から約4年間とてもお世話になりました。ありがとうございます。

最初のおのこは、体力にも自信がなくて、作業の内よき分からなくてばかりで、他の利用者さんたちと仲よくなれるか不安でした。

でも、職員のみなさんや、先輩の利用者さんたちも、あたたかくやさしく、助けて下さったり、いろんなことを教えて下さって、とてもうれしくてだんだん、がんばれるようになってきました。

塩作業では、ゴミとりや、計量して、ふくろに入れたり、手づくり作業では、一番最初に型どりを覚えて、フッキーのシールは、着物ほどこ、新聞おりも少しかけるようになりました。

まかないの昼食はいつもおいしかったし、厨房で洗い物や盛りつけのお手伝いしたのも、とてもうれしかったです。

小村先生がしてくるしりも毎月楽しみにしていました。

送迎では、雨の日も、暑い夏の日でも、寒い冬の日でも、明るくまいたが、今日の体温チェッカーの声かけもして下さったので、

元気に仕事をがんばろうと思えました。

橋詰所長さんはいつも明るく笑顔で見守っていて下さったので、とても安心しているなことが、がんばるきっかけです。

書ききれないくらい楽しい思い出がいっぱいになりました。

みなさんのおかげで、できることも増えて、自信もつけることができました。

卒業して、次の事業所さんや民宿のお仕事もがんばって、いけるような気がします。

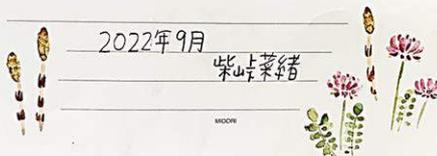
本当にありがとうございます。

また、おのこの家さんのおいしパンや、フッキーを買って来たいと思っています。

みなさん本当に気をつけてどうぞお元気で下さい。

2022年9月

柴峠菜緒



# 神戸長田ふくろうの杜

〒653-0836 兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1  
 電話：078 798 7940  
 FAX: 078 798 7941

## 野菜販売 始めました

9月21日(水) 午前中、神戸平野ふくろうの樹の駐車場で淡路島の洲本市中川原の野菜を販売しました。

淡路ふくろうの郷や神戸長田ふくろうの杜でもお世話になっている「市原青空会」から新鮮野菜を仕入れて地域のみなさまに提供しました。

開催にあたっては、近隣の自治会にもご協力をいただき、机やいすをお借りしました。机やいすを運んだり自治会の掲示板にビラを貼っていただいたり私たちの取り組みに応援をしていた



▲「ビラを見てきました。定期的にするの？」と期待をさせていただいています



▲次回は10月19日(水) 予定

だいています。

お越しいただいたお客さまからは「前は中止になって残念でした。今回も楽しみにしていました」とご家族でお越しいただいた方や「毎朝サラダを食べるから、レタスとかごぼう、ミニトマトとかあったらいいのにな」など、期待の声もいただきました。

今後は、月1回の野菜販売を通じて地域の声を聞く機会を作って、高齢の方が集い憩える場になるような取り組みを進めていきたいと思えます。まずは、施設に足を運んでいただき、お話ができる関係を作りたいと思えます。(神戸平野ふくろうの樹)

管理者 竹原 哲章)

## 敬老の日のお祝い

敬老の日は「多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し長寿を祝う日」とされ、2003年から毎年9月の第3月曜日と決まっています。

なぜ敬老の日が9月にあるのかご存じですか？

いくつかの説がありますが、農業の閑散期で気候が良い季節であることや兵庫県北播磨野間谷村(現在の多可町八千代区)で当時の村長が「お年寄りを大切にして村の発展のための知恵を借りよう」と敬老会を開いた日だともいわれています。

ふくろうの杜デイサービスでは、9月19日からの一週間、レクリエーションの時間に「敬老会」を行いました。「敬老の日」にまつわるクイズやゲー



▲皆さんに生まれた年をお聞きしているところです



▲その日の最高齢者に写真を贈呈

ムをしました。また、番外編で「ふくろうの杜クイズ」を出題しました。画面に2つの浴槽を映しふくろうの杜はどちらかを当てたり、職員の後ろ姿を映し、誰か当てたり…。笑い声が絶えず、それが一番盛り上がりました。曜日ごとに最高齢の方を発表し、写真の贈呈も行いました。「あの人が一番年上？足腰しっかりしていて元気だなあ」「私が一番若い！」など、いろんな感想が飛び交いました。

一週間を通してたくさん笑顔を見ることができ、とても嬉しく思いました。

(ふくろうの杜デイサービス 職員一同)